

2 地域特性

(1) 中丹地域の位置・地勢等

中丹地域は、京都府の北部に位置する、福知山市、舞鶴市及び綾部市からなる丹波山地の山々と日本海に囲まれた地域です。

東西は56km、南北は50kmにわたり、面積は1,241.82km²と京都府域の約27%を占め、丹後地域、南丹地域、福井県の嶺南地域と兵庫県の但馬・丹波地域に隣接しています。

若狭湾の美しい白砂と透き通った海や丹後天橋立大江山国定公園の大江山連峰で見られる雲海、地域を貫流する由良川の豊かな流れ、緑豊かな里山の風景や美しい星空など、「山」「川」「海」「空」とすべての自然に恵まれています。

地域の特産物では、日本海で獲れるカニや丹後とり貝等の海の幸、緑豊かな自然の中で育った万願寺甘とうをはじめとしたブランド京野菜や丹波くり・丹波マツタケ等の山の幸など、四季を通じて豊かな食を楽しむことができます。

また、京都舞鶴港が国内では北海道と国外では北東アジアとの日本海側の玄関港として、陸上交通では古くから京阪神と関西北部との交通の結節点として、舞鶴若狭自動車道、京都縦貫自動車道、国道9号・27号・173号・175号等の道路網、JR山陰本線・福知山線・舞鶴線・小浜線、北近畿タンゴ鉄道(KTR)※宮福線・宮津線の鉄道網が整備されています。



(北近畿タンゴ鉄道(KTR)の車両)

※北近畿タンゴ鉄道は、平成27年4月1日以降、鉄道通称名を京都丹後鉄道、略称を「丹鉄」として、WILLER TRAINS株式会社により運行されます。



(大江山の雲海)



(丹波くり)



(丹後とり貝)

(2) 丹波と丹後の個性あふれる生活・文化・経済圏を形成してきた中丹地域

丹波山地の山々と日本海に囲まれた中丹地域は、豊かな自然を背景に、歴史的に丹波と丹後の個性あふれる生活・文化・経済圏を形成してきました。

縄文時代・弥生時代には、由良川流域を中心に集落が営まれ、古墳時代には、由良川を見下ろす丘陵上に築かれた私市円山古墳(綾部市)をはじめとした数千基の古墳が築かれ、奈良時代には、古代寺院の存在も確認されています。



(私市円山古墳)

平安時代には、山岳寺院が開かれ、仏像、祭礼、芸能、薬師信仰や鬼退治伝説など特色ある文化や文化財が現在まで伝えられています。



(田辺城址)

南北朝時代・室町時代・戦国時代にかけては、多数の山城が築かれています。また、丹波は、室町幕府を開いた足利尊氏との関係も深く、安国寺(綾部市)には足利尊氏生誕の伝承が残されています。さらに、織田信長の丹波平定後には、丹波の福知山は、由良川の築堤等も行った明智光秀が領主となり、丹後の舞鶴は、和歌等に通じた文化人でもあった細川幽斎(藤孝)が領主となり、それぞれ福知山城と田辺城を築城し、城下町がつくられ商業が栄えました。

江戸時代には、幕府の方針から京の周辺には大大名が配置されなかったため、比較的小規模の城下町がそれぞれ独立して栄え、今日の福知山市・舞鶴市・綾部市の礎となりました。

また、由良川の水運が経済の動脈として利用されるとともに、今日の京阪神に至る内陸交通が発達しました。

明治維新を迎えるに当たり、山城・丹波(一部は兵庫県)・丹後の3国が京都府の府域となり、丹波・丹後の両国にまたがる中丹地域も、幾たびの変遷を経て京都府に属することとなりました。また、舞鶴～綾部～福知山～大阪をつなぐ阪鶴鉄道(現在のJR福知山線・舞鶴線)や山陰本線が開通しました。産業面では、由良川の自然をいかした桑栽培と養蚕業が盛んに行われていたことから、綾部市に明治29年に蚕糸業として現在のグンゼ株式会社が設立され、製糸機械製造のための機械工業も盛んに行われて現在のものづくり産業の礎となりました。

戦前には、福知山市に旧陸軍の歩兵第20連隊が、舞鶴市に多くの赤れんがの建造物とともに旧海軍の舞鶴鎮守府が置かれました。現在でも、福知山市に陸上自衛隊の第7普通科連隊など、舞鶴市に海上自衛隊の舞鶴地方総監部、第八管区海上保安本部など重要な任務を担う国の機関が置かれています。

昭和12年4月に福知山市が、昭和13年8月に舞鶴市が、昭和25年8月に綾部市が、それぞれ市制を施行し、府内では京都市に次いで2番目から4番目に古い市制施行となっています。

また、昭和25年に綾部市が日本初の「世界連邦都市宣言」を行い、その後、福知山市及び舞鶴市も続き、中丹地域のすべての市が「世界連邦都市宣言」を行っている京都府内で唯一の地域となっています。



(平和の塔から臨む綾部市街地)

戦後には、旧軍施設の平和的転用による産業振興や養蚕・繊維工業に代わる新しい工業の振興が地域の課題となりました。このため、昭和37年度に始まる京都府総合開発計画の重点事業として旧陸軍の演習地を利用した長田野工業団地が造成され、また、旧海軍の施設を転用し京都舞鶴港の整備が進められました。さらに、ハイテク産業の誘致をめざした綾部工業団地が造成され、高速道路網の整備も進められてきました。



(長田野工業団地)

近年では、舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道の整備が進み、京都・大阪・神戸・名古屋方面との交通アクセスも一段と良好になるとともに、日本海側拠点港に選定された京都舞鶴港においては、その機能を強化する整備が進められており、多くの企業が集積する長田野工業団地、同アネックス京都三和や綾部工業団地等を有する関西北部・日本海側の産業拠点を形成するに至っています。

(3) 未来へ向かって大きな夢の持てる中丹地域

中丹地域は、人口が減少傾向にあるとともに、18歳になると進学・就職等によりこの地域を離れる傾向が強いこと、少子高齢化の進行とそれに伴う過疎化・集落維持問題、依然として深刻な野生鳥獣被害、中心市街地の衰退、回復基調に弱さがみられる経済情勢、医師不足等の課題があります。

また、社会基盤の整備により便利になる反面、人々が通り過ぎる地域となりはしないかとの不安もあります。

さらに、近年短期的サイクルで大規模な風水害が発生しており、災害に強い地域づくりも大きな課題となっています。

一方、中丹地域は、府内の4広域振興局管内の中で夜間人口よりも昼間人口が多い（流入人口のほうが多い）唯一の地域であり、多くの国・府等の研究機関や4年制大学・各種の高等教育機関が設置されているとともに、支店や営業所等の営業拠点を置く企業も多く、関西北部・日本海側の中核的な地域となっています。

こうしたことに加え、舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道の整備による関西圏中北部圏の広域高速環状ネットワークの形成、日本海側拠点港に選定された京都舞鶴港の物流・人流の機能強化等、インフラの整備が着実に進んでおり、一層飛躍することが期待されます。



(綾部JCT)

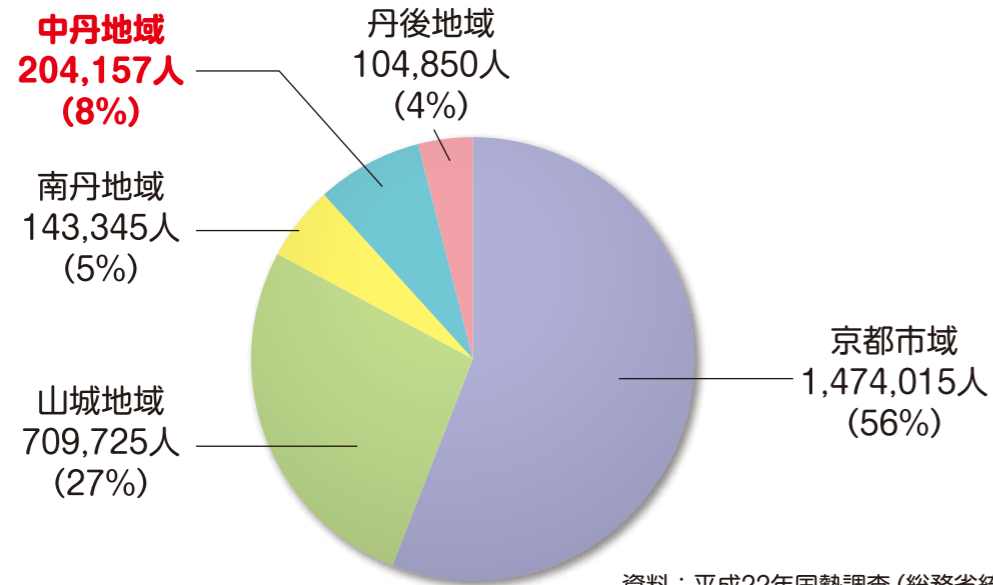


(京都舞鶴港)

人口に係る統計からみた中丹地域

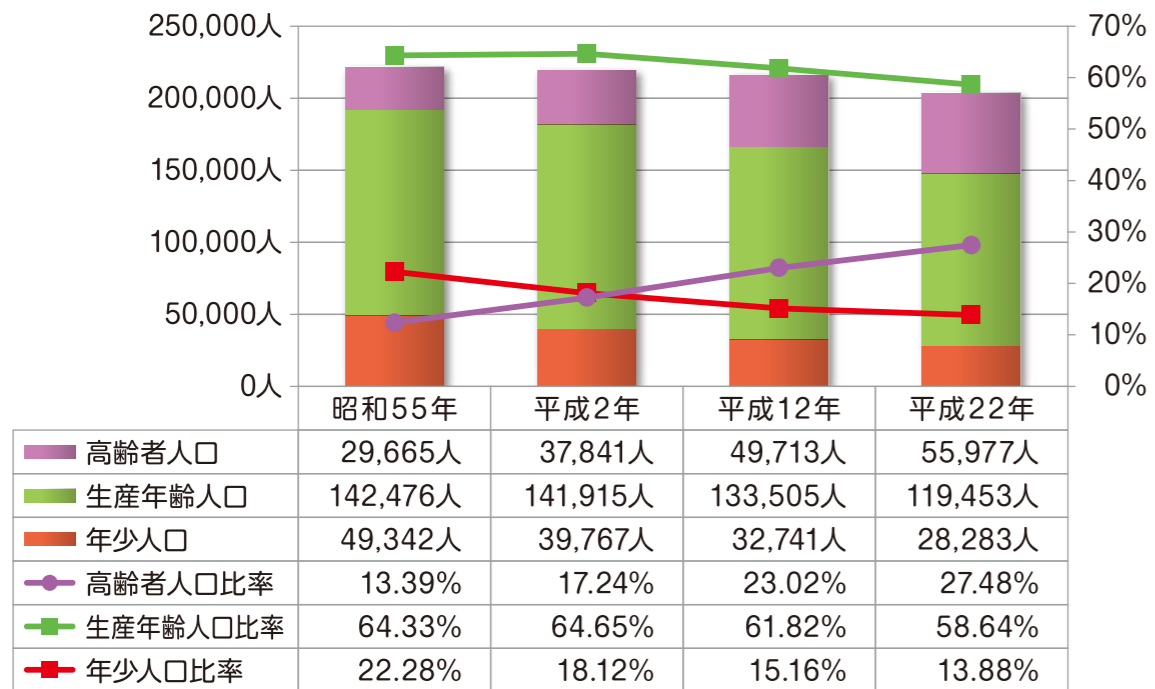
中丹地域の人口は、京都府全体の約8%を占めています

【地域別人口と比率】



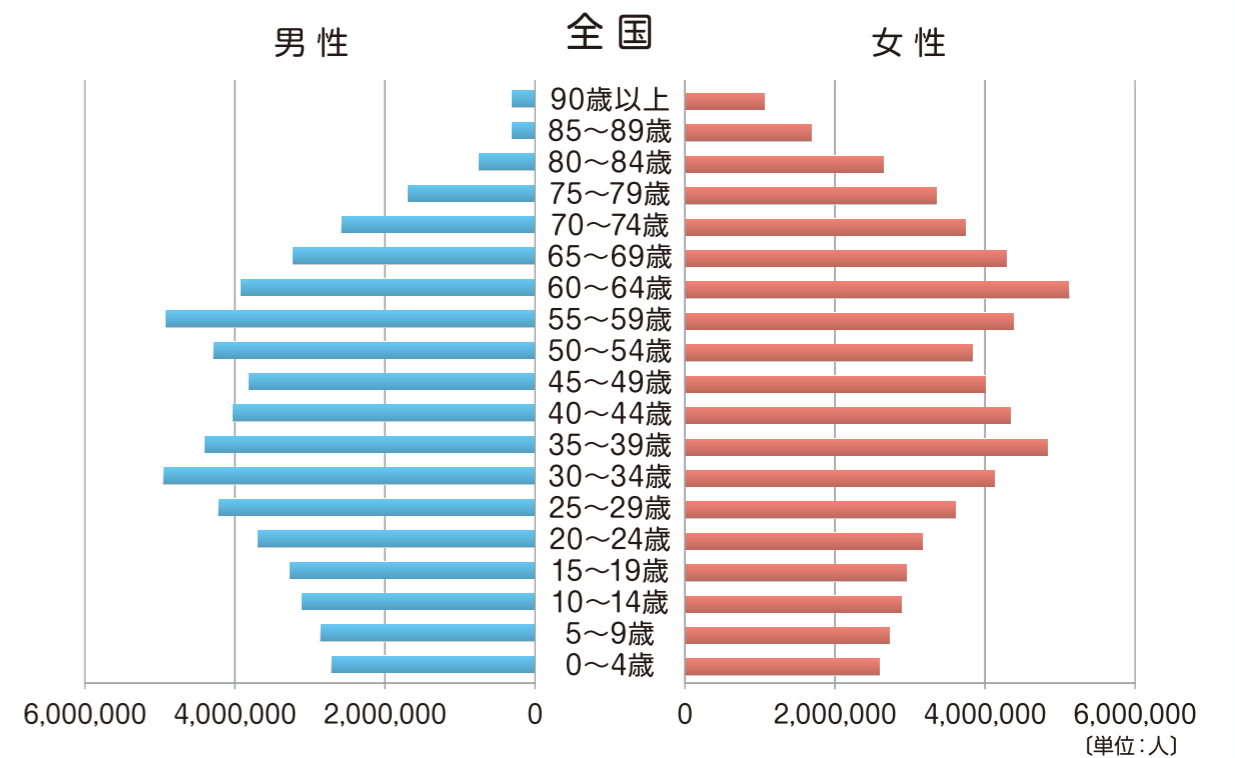
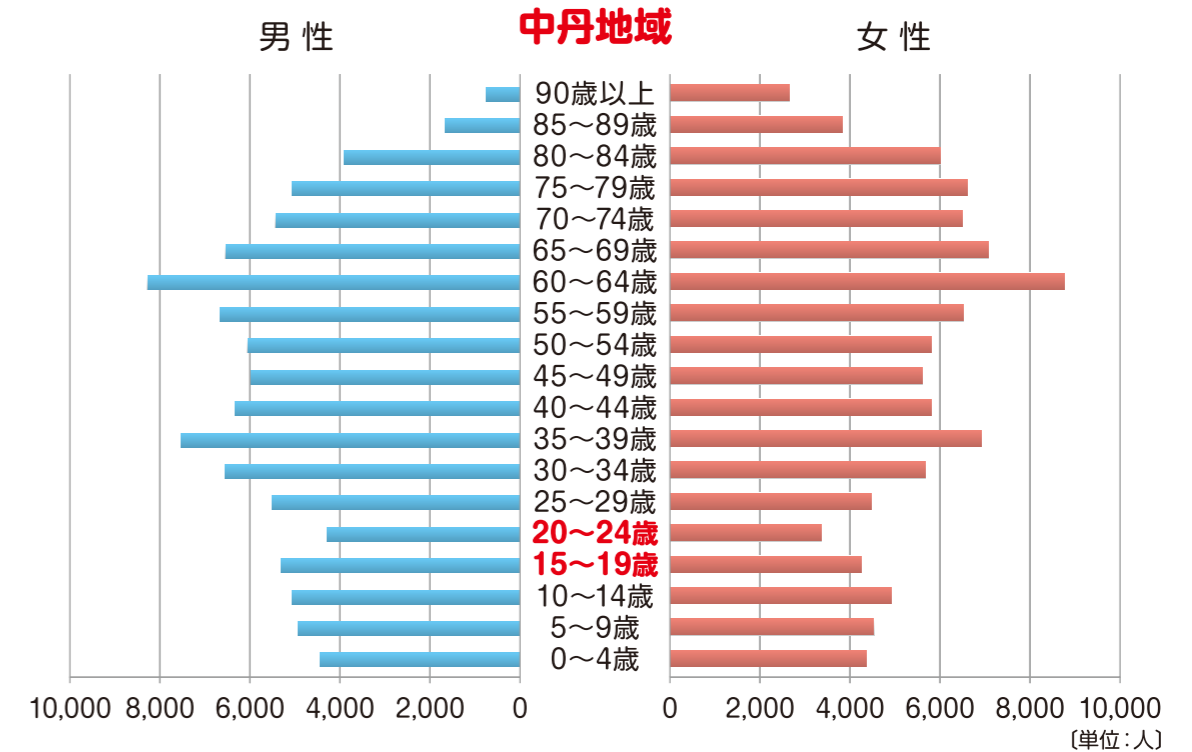
人口が減少するとともに少子・高齢化が進行

【中丹管内の人口の動向】



進学・就職等により中丹地域を離れる傾向が強い

【人口ピラミッド】



資料：平成22年国勢調査（総務省統計局）